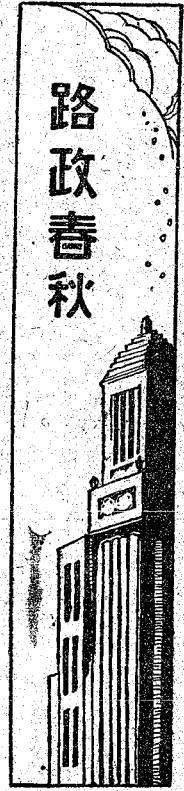


路政春秋



注 意

本欄は讀者諸君の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯部に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

輸送力の強化は道路

の改良鋪裝から

小川鐵相は時局下緊切の交通問題として輸送力の強化は國策の中核たる高度國防國家體制の完成、日滿支の強固たる結合を根幹とする大東亞共榮圈の確立に即應して鐵道の使命に俟つべきを懇々説述せらるる所があつた。實に愷切の意見である。鐵道の改良に關しては車輛の増備、幹線輸送力の擴充、輸送隘路の補強等物的方面の改良整備は勿論であるが、従業者養成の人的整備もまた必須の方策である。は言ふを俟たない所であるが、鐵道輸送を大動脈とすれば國道は大靜脈乃至大淋巴管たるべく府縣道

市町村道は小動靜脈小淋巴管及毛細管の働きを爲すの役割を爲すものである。従つて鐵道輸送力の強化を圖らんとすれば必ずや道路の改良整備として路線の再検討、構造、鋪裝の改裝普及の如き近代道路の姿を完成せしむべきもので、此道路問題を閉却し輕視して尙鐵道の強化のみを企つるは跛行的交通策たるを免がれざるものである。此點實に時局下の緊迫せる交通問題である。(鏡)

百三十五億の貯金を

目ざしての回顧

高度國防國家の建設と大東亞共榮圈の確立とによりて我等國民は百三十五億圓の貯

金高を強調されることとなつたので、郵便貯金の最高制限額二千圓が三千圓に一度の預入れ金二十錢が五十錢に引上げられた。之が國民の所得及貯蓄力の増進に對應せると共に國民に新たな貯蓄の目標を與へるものであると理由づけられて居るが、郵便貯金の過去を回顧するに、郵便貯金制度が創設せられたのは明治八年で當時は最低制限額十錢、最高制限額五百圓であつた。その後この最高制限額は明治三十八年に千圓、大正九年に二千圓と二度引上げが行はれてゐる。明治三十八年の國民所得は人口一人當り二十六圓、大正九年には約百五十圓で最近では(昭和十四年)三百五十圓となつて、大正九年當時の約三倍餘の増加振り

である。一方郵便貯金總額の状勢は大正八年には八億九千餘萬圓であつたが、十九日の衆議院委員會で明らかにされた最近の數字は七十六億を越え、約十倍餘の激増振りである。驚くべきかな貯金の發達はと思はざるを得ない。(後樂生)

魚を殖やせよ川沼の利用で

農林省では戦時下國民の食糧確保のため水産、農産物の全般に互つて必需食糧を重點に劃期的な計畫生産に乗り出したが、その一つとして、同省水産局では全國に互り利用出来る限りの河川湖沼並びに一部水田を開發し、大衆向淡水魚の増殖を斷行することになり、具體案を練つてゐる。

最近の魚介類の不足、供給の不備などから農山村等では殆ど魚肉が手に入らず、増産に邁進してゐる農村の榮養はとみに低下してゐる實情にあり、その對策として、また一つには國際情勢が萬一にも悪化した場

合、遠海漁業は相當に抑制されることも豫想され、その場合における魚肉の供給に備へるためといふと二つの點から乗り出したもの。増殖魚は大衆向きであると同時に生存に強い魚、例へばワカサギ、モロコ、ドジャウ、コヒ、フナ、アユ等で道府縣がそれぞれ水産試験場で繁殖した稚魚を市町村に供給、一方これが保護施設をして河川湖沼の放流場所を改善するとともに、これに連絡する入江、灌漑用溜池、遊園池を蕃殖區に設定する方針、このために要する勞力は出来る限り青年團、處女會、或ひは青少年學校生徒の協力にまつ豫定だと宣傳に止まらず必ず之を實行せられんことを切望するは一億一心であらう。(先愛生)

偲ぶるる勤皇志士の遺書

戰國時代諸將の文書中では珍しい元播州三木城主別所小三郎長治の古文書が京都で發見された。長治は赤松氏の支族、今をさ

る三六〇年前秀吉西征の際播磨三木釜山城に立籠り、約二年近く馬を食ひ屍を食つて悲惨きはまる抗戦をしたが遂に力盡きて落城、天正八年正月一族郎黨とともに二十三歳の若さで自刃し果てたため文書などの遺物がいたつて少いが、此度京都市二條通の一古道具屋の店先で左京區田中大堰町田中良一氏に依つて發見された文書は、朝廷への御進物之儀に關する宰相宛ての書狀で、長治の勤皇の志も偲ばれるとともにその花押は家族に似ず優しく若々しく認められ、長治その人を羨慕させてゐると京大文學部の中村直勝助教も證言された珍書である。

X X X X